



諏訪清陵SSH便り

諏訪清陵高等学校

9月3

平成26年度第13号

(平成22年度指定)

附属中学校野外自然観察および信州大学農学部キャンパス見学実施

諏訪清陵SSH、公益財団法人諏訪学園学校理科教育振興基金支援事業

～ 高遠高校のジオパークガイドを目指す生徒がガイドをつとめてくれました ～

9月11日(木)附属中学校1学年生徒80名が伊那市長谷溝口にある「中央構造線溝口露頭」の観察と、中央構造線に沿って伸びる「秋葉街道」沿いの文化遺産や、中央構造線の露頭の観察をしながら散策しました。

今回は、ジオパークガイド養成講座を受講している高遠高校生徒15名余と理科の杉山先生、小澤先生が半日中学生の露頭と秋葉古道散策のガイドおよび講師を務めてくださいました。午後は信州大農学部キャンパスで研修しました。

当日は幸い穏やかな日利に恵まれ、屋外での実習を無事実施することができました。中央構造線は巨大な断層系で異なる地層が隣合う地層の境界線です。

関東平野から長野県内に入り、諏訪、杖突峠、高遠、長谷、大鹿、遠山と南信を南北に縦断し、静岡で西に向きを変え、渥美半島、紀伊半島の櫛田川、紀ノ川沿いを通り、四国に入ると吉野川沿いにさらに西に進み、九州を東西に切っています。中部地方と西日本を撮影した衛星写真をみると、はっきりと中央構造線を肉眼で確認することができます。長野県内では、大鹿村安康露頭や北川露頭などが有名ですが、伊那市長谷周辺の秋葉街道沿いにもいくつかの露頭が知られており、今回訪問した溝口露頭は中でも安全に中央構造線の様子を観察できる場所です。

現地では、中央構造線を境に、向かって右側に深緑色の緑色片岩などを含む「三波川変成帯」、左側に花崗岩などからなる黄土色の「領家変成帯」等の断層系をはっきり観察することができました。高遠高校小澤先生の丁寧な説明の後、実際の岩石に触れましたが、溝口露頭では黄土色の領家変成帯の花崗岩やマイロナイトが固く、三波川変成帯の緑色片岩がポロポロに風化している様子を観察できました。

また、南を眺めると分杭峠(写真↓)が遙かに眺められました。中央構造線の断層系の存在で浸食され、V字型の谷(ケルンコルン)になっているそうです。

「色がはっきり違ってすごかった」等の感想が長野日報に報じられました。



三峰川(みぶかわ)を美和ダムで堰きとめた「美和湖」の南側に「分杭峠」のケルンコルンが見える。

～ 秋葉古道周辺の地形、文化遺産見学 ～



上：中尾歌舞伎座に集合 下：中尾辻石仏群



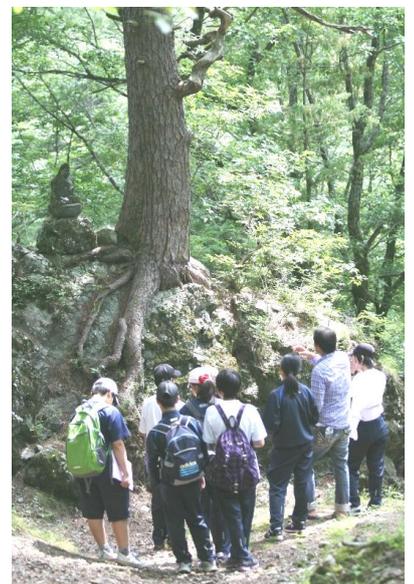
の花崗岩のみならず秩父帯に由来する赤色チャートなども観察出来ました。

溝口露頭の見学のあと、伊那市長谷中尾集落に移動し、そこから高遠高校の生徒の皆さん15名余に案内されて、秋葉古道沿い約3.5kmを伊那市市野瀬入野谷(いりのや)まで、文化遺産や地形を観察しながら散策しました。

高遠高校の皆さんは散策ルートを下見して当日に備えてくれたとのことでした。

中尾歌舞伎座の脇には「中尾辻石仏群」があり、県内には珍しい球形道祖神があります。球形道祖神は三河に多いもので、伊那の山村が信州と三河の交易の重要な位置を占めていたことを知りました。道中には「白衣観音」が古道の上に立ち、古道を通る旅人の安全を祈って数百年以上この地に祀られているとのことでした。美しい三峰川(みぶかわ)に沿って、険しい古道を歩きながら、いにしえの人々の苦勞とそれを乗り越えて信州と三河の交流を続けてきた人々の活力に思いを馳せました。

途中、足元の地面が深緑色の三波川変成帯から黄土色の領家変成帯へ変わる場所を観察しました。三峰川の河原では、さまざまな色や硬度の小石や細かい砂があり興味を深めたようです。三波川の蛇紋岩、領家



古道の道中にたつ白衣菩薩